

(国語)

確かな読みと豊かな表現力の育成 ～4年間の取り組みを通して～

大阪市立松之宮小学校 研究部

1. はじめに

本校では、2015年度から、研究主題を「確かな読みと豊かな表現力を育成する」とし、児童が教材文や本の内容を正確に読み取って、自分の思いや考えを豊かに表現し合う姿をめざした指導法の研究を始めた。表現活動を苦手とする本校の児童にとって、文章を正確に読み取ることが、自分の考えに結びつくきっかけとなり、自分の考えをしっかりとつことができれば、もっと人に「伝えたい」と感じるのではないかと考えた。初めの2年間で「確かな読み」の育成に重点を置いて取り組み、あとの2年間で「豊かな表現力」の育成に重点を置いて取り組むことにした。

2. 3年間の取り組みから見えた成果と課題

児童アンケートの結果から、国語科に対する意識は高まり、「国語が好き」と感じる児童が増えたことがわかった。また、積極的に交流をしようとする姿が見られるようになり、「発表や交流」「作文や日記の学習」が好きと肯定的にとらえている児童も増加した。しかし、「話すこと・聞くこと」に関する学習に対して肯定的にとらえる児童の伸びが、他の項目に比べて少ないということもわかった。そこで、本校の課題は「交流に対する児童の意識を高める」ことと「相互交流による学び合い」であると考え、伝えるだけの交流ではなく、相互に意見交流ができるような話し合い活動や意見の深まりをめざした指導法の研究をすることにした。

3. 今年度の研究について

(1) 研究主題

確かな読みと豊かな表現力を育成する～学び合える授業づくりの工夫～

(2) 研究の概要

視点① 楽しんで伝え合おうとする児童の育成

◎児童の学習意欲や興味・関心を高める工夫

- ・第Ⅲ次の活動に生かすことのできる言語活動を設定することで、目的意識をもった交流ができるようにした。
- ・楽しんで取り組めるように交流方法を工夫し、視覚的にわかりやすくした。
- ・「先生の要約を手伝ってほしい」と児童に投げかけたり、初発の感想を活用した問題解決型の学習にしたりすることで、学習の動機付けをした。
- ・自分の考えに自信をもつことができない児童が多いことから、ペア・グループ・全体という段階的な交流の場をもつようにした。
- ・発表や交流に対する自己肯定感を高めるため、学習のふり返しとして自己評価を取り入れた。

◎考えをもたせる工夫

- ・掲示物等で言語環境を整え、人物関係図を使って自分の考えを整理したり、深めたりできるようにした。また、全員の人物関係図を毎時間印刷して配付する

ことで、参考にしたり、次時への意欲につなげたりできるようにした。

視点② 深い学びにつながる交流をめざした指導法の工夫

◎相互交流のための工夫

- ・低学年では、相手を意識した伝え方や聞き方ができるように、質問役と説明役にわかれて読み取ったことを交流した。
- ・交流する内容をしぼることで目的やねらいにそった交流ができるようにし、何について交流をするのかが明確になるように、交流の観点を掲示した。「根拠を尋ねる」などのルールを設定することで、考えを深められるようにした。

◎考えの可視化

- ・大判ホワイトボードに本文を貼り付け、大事な言葉に線を引いたり、考えを書き込んだりしながら交流をすることで、互いの考えを可視化した。また、タブレットでワークシートを撮影し、電子黒板に投影することで全体でも共有できるようにした。

◎考えをもたせる工夫

- ・学習したことをふり返られるように掲示物を充実させ、一人で考える時間を十分に確保するようにした。」

視点③ 支援の必要な児童に対する指導方法の工夫

◎安心して伝え合える環境

- ・指導者による意図的な座席の配置やグループにすることで、自分の考えに自信をもつことができない児童が、安心して自分の考えを発信できる場を設定した。

◎視覚的支援の充実

- ・教材文を色分けすることで段落構成などをとらえやすくしたり、蛍光マーカーでラインを引いたりすることで、一人一人が主体的に学習に取り組めるようにした。中国語に翻訳した教材文やヒントカードなど、個々の課題に合わせた支援を用意した。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

「環境・目的・方法・考え・評価」の5つ要素を工夫することで、交流に対する児童の意識や交流の質が向上することがわかった。互いの意見を受け入れることのできる学級集団づくりや言語環境を整え、何のためにどんな方法で交流をするのかを明確にすることが大切である。そして、一人一人が自分の考えをもてるように工夫し、交流を通して互いに評価したり、交流後に自己評価をしたりすることで、児童の達成感や成就感につながった。児童アンケートによると、「発表や話し合いが好き」と肯定的にとらえる児童が大きく増加し、発表や話し合いができるようになったと実感している児童も増加した。

(2) 今後の課題

- ・言語感覚を養い、言語活動の充実を図る。
- ・互いのグループの意見を比較したり、評価したりしながら、意見を高めていく協働的な学びになるように、指導者の発問によって整理していく。